

— 2024年度 —

事業報告

社会福祉法人 茨城いのちの電話



ご挨拶（開局 40 周年を迎えて）

社会福祉法人 茨城いのちの電話 理事長 幡 谷 浩 史

皆々様の暖かいご協力・ご支援の下、お陰様をもちまして社会福祉法人として大過なく運営出来ます事に対し衷心より感謝申し上げます。さて 2025 年 6 月は 40 周年を迎えます。40 年前を想像しますと、当時は「福祉」なる用語すら世間一般の方々までには理解されておらず、許可を与える行政から、社会福祉法人として法人格を取得しその様な団体が本当に運営が出来るのかと不思議がられました。「いのちの電話」の事業目的のために必要な資金調達、人員配置と事務体制等々心配する項目が多々あり、初代理事長・大須賀発蔵氏（人間関係研究所）、筑波大学教授・稲村博氏のご苦労はいかばかりかと推測します。これら法人登記のすべてを弁護士・萩野谷興氏のご協力を得て晴れて「社会福祉法人」として許可を得るに至った事に「いのちの電話」を引き継ぐ者として感謝する次第です。

「いのちの電話」はロンドンでサマリタンズ（良き隣人）として始められました。よきサマリア人の例えでは、助ける相手は通りすがりで行きずりの人です。隣人が知人なら将来のため打算がどうしても混じってしまいます。無関係である事が最も重要な事なのです。「いのちの電話」は相手を自分の利益のために利用しようとする意思の全く無い希有な存在なのです。

1984 年筑波研究学園都市の主婦 7 名から始まった「いのちの電話」は 1985 年電話相談を開始し 1986 年に後援会が発足し 1988 年に茨城県より社会福祉法人として許可されました。1991 年電話相談受付 24 時間体制が開始され 1992 年水戸分室が開局しました。

2016 年に社会福祉法人の資格の厳格化（経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上等の社会福祉法人制度改革）が行われた際に身をもってその大変さを実感させられましたが、この法律に沿って「いのちの電話」を社会福祉法人として継続することが出来ました。これからも 2 代目理事長として精一杯頑張りますので皆々様のご支援宜敷くお願い致します。

2024 年度 事業報告

I. 相談事業

A. 電話相談

1) 相談体制の概要

- ・相談時間 つくば・水戸併せて 24 時間
(実際、24 時間相談は減少)
- ・相談日 年中無休

2) 電話相談員 (2025 年 3 月末時点)

- ・認定相談員数 866 名
- ・在籍相談員数 152 名 (男性 36 名 女性 116 名)
- ・実働相談員数 125 名 (男性 33 名 女性 92 名)

3) 電話相談受信状況

(2024 年 1 月～12 月フリーダイヤル含まず)

- ・相談件数 11,833 件

男性 5,789 件 48.9%	女性 5,962 件 50.4%
その他 82 件 0.7%	

- ・相談時間数 5,479 時間 05 分

男性 35.5% 1,947 時間 58 分	女性 63.7% 3,471 時間 42 分
その他 39 時間 25 分 0.7%	

- ・平均相談時間数 27 分
(男性 20 分 女性 35 分 その他 28 分)
- ・全国総相談件数 (50 センター)
477,758 件 (前年 565,511 件)

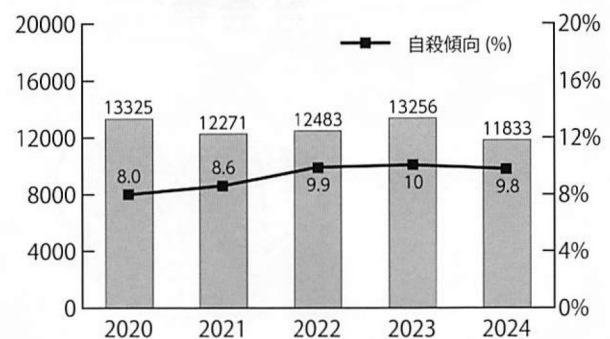
4) 相談の実態とその傾向

- ・2024 年 (1 月～12 月) の受信件数 (通常電話 + FD) は 15,332 件であった。
- ・男女比は、男性 48.1 %、女性 51.3 %、その他 0.6 % である。自殺傾向の電話は全体の 13.0 % (通常電話では 9.8 %、FD 電話では 23.7 %) である。

- ・相談内容では「人生」22.3 %、「精神」17.6 % に集中しており、男女共生きづらさや孤独、及び精神疾患の苦しみに関する電話が多い。
- ・自殺傾向の相談者は、男女共 40 代、50 代が多く、全体の 45.9 % である。女性は 30 代も多く、昨年より増加した。

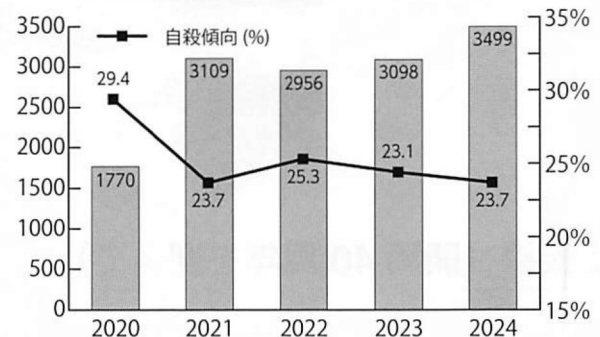
通常 (茨城いのちの電話)

受信件数と自殺傾向率推移

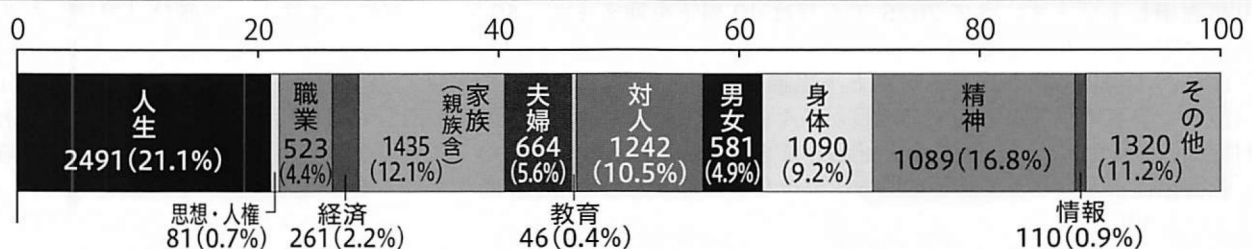


自殺予防フリーダイヤル (毎月 10 日 FD + 毎日 FD <16:00-21:00>)

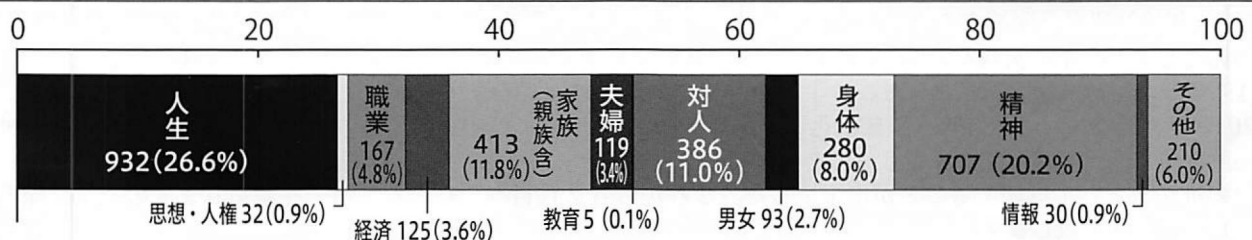
受信件数と自殺傾向率推移



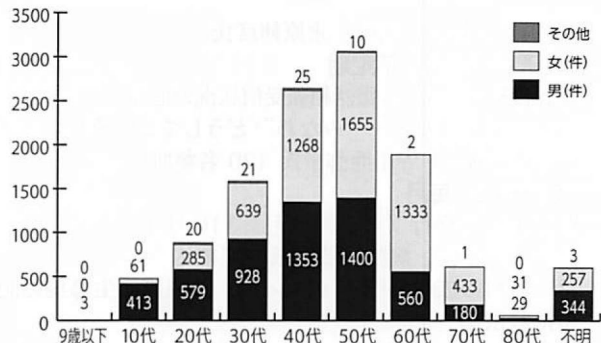
相談内容別件数と割合：通常 (茨城いのちの電話)



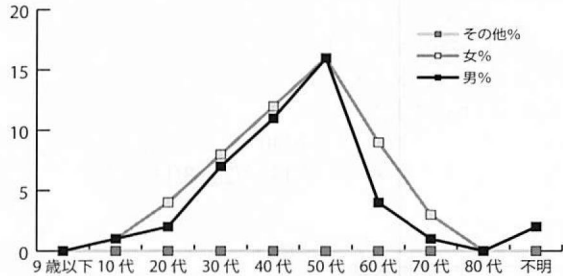
相談内容別件数と割合：自殺予防フリーダイヤル (毎月 10 日 + 毎日)



通常（茨城いのちの電話）

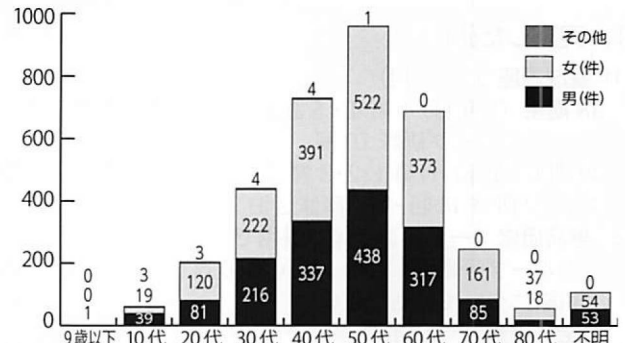


年代別受信件数の内訳 (11,833件：男5,789件、女5,962件、その他82件)

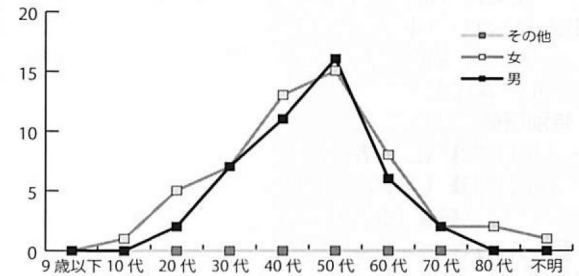


年代別自殺傾向の割合 (1161件：男515件、女637件、その他9件)

自殺予防フリーダイヤル (毎月10日FD+毎日FD(16:00-21:00))



年代別受信件数の内訳 (3,499件：男1,585件、女1,899件、その他15件)

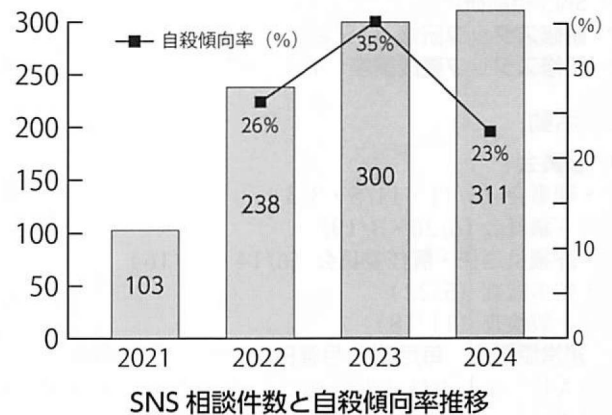


年代別自殺傾向の割合 (830件：男380件、女447件、その他3件)

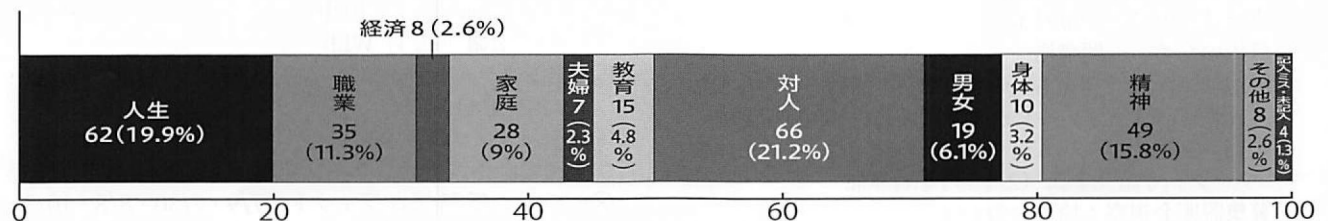
B. SNS 相談

- 4年目に入り相談員17名(実働13名)で月5回受信
第1～第4日曜日 16:00～20:00
第2火曜日 12:00～16:00
- 2024年相談件数
 - 総相談件数*1 311件(前年度300件)
年代別では、50代以上の女性、20代男性、20代女性の相談が多い
 - 自殺傾向*2の相談件数 73件(総相談件数の23%)
男性25件(男性の総相談件数の32%) 女性47件(女性の総相談件数の21%)
その他*3 1件(その他の総相談件数の10%)
年代別では、20代男性、20代女性・50代以上女性の順に多い

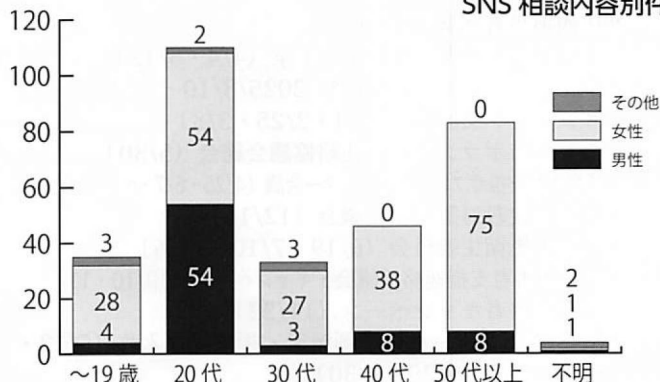
- *1 「総相談件数」＝「送受信件数」－「応答なし」
*2 「自殺傾向」とは、[念慮][危険][予告]を「自殺傾向」とした
2021年は自殺傾向の記述をしていなかった
*3 性別の「その他」とは、[答えたくない][どちらでもない][不明] など



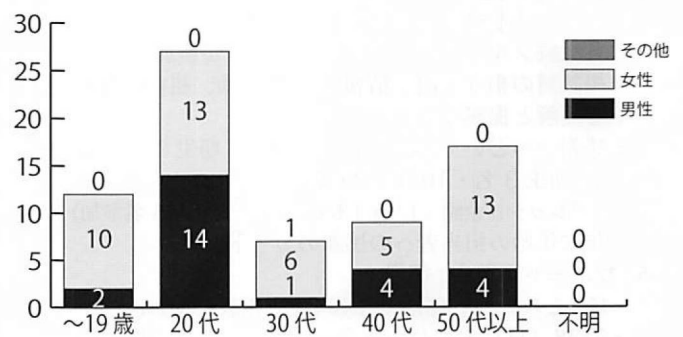
SNS相談件数と自殺傾向率推移



SNS相談内容別件数と割合 (311件)



年代別相談件数の内訳 (311件：男78件、女223件、その他10件)



年代別自殺傾向の内訳 (73件：男25件、女47件、その他1件)

Ⅱ 活動内容

1. 実施した研修

- (1) 養成講座 (18 ヶ月)
38 期生 (2 年目): 第 4・5 課程: 8 名進級: 講義 3 回・グループ研修 10 回
39 期生 (1 年目): 第 1・2・3 課程: 11 名で開講: 講義 10 回・グループ研修 18 回・宿泊研修 2 泊 3 日
- (2) 継続研修: 一部オンライン併用で実施
・グループ研修 (年 8 回) 対応の振り返り、相互サポート、組織についての話し合い
・全体研修会 (2 回)
6/16「怒りから考える感情との付き合い方」講師 榎村正美氏 (常磐大学人間学部心理学科 准教授)
2/2「いのちの電話の基本理念～ビフレンディングということ」講師 永原伸彦氏 (笠間の森カウンセリンググループ代表)
- (3) 特別研修
・3 年目研修 (該当者なし)
・5 年目研修 (2/16 34 期生 6 名参加)
・アドバンス研修「電話相談の聴き方～こんな時どうするの?」
- (4) 個人スーパーヴィジョン
(希望 SV、復帰 / 転入時 SV、養成講座 SV)
講師: 外部サポーター / 研修スタッフ
- (5) フリーダイヤル研修
各継続グループでロールプレイ実施
- (6) SNS 相談研修 (4 回)
- (7) 研修スタッフ研修 (15 名)
- (8) 研修スタッフ養成講座 12 回 (4 名)

2. 活動

- (1) 役員会
・理事会 (6/11・11/5・3/3)
・評議員会 (6/20・3/19)
・評議員選任・解任委員会 (6/14・11/16)
・監事監査 (5/22)
・一般検査 (11/18)
- (2) 運営協議会: 毎月第 3 月曜日 (18:30～20:30)
各委員会より委員長他 1 名出席し組織運営の諸問題の方針決定
- (3) 研修委員会: 毎月第 2 金曜日 (18:30～21:00)
・研修スタッフ会: 毎月第 1 土曜日定例会
・募集のための公開講座
「あなたの人生を支えるいのちの電話の活動～ぜひ参加して体験してください～」永原伸彦氏 (1/19) 11 名参加
「自分を開放する・人とつながる～絵画療法プチ体験ワーク」守屋英子氏 (2/15) 14 名参加
・募集説明会視察: 埼玉いのちの電話 (1/11)
: 栃木いのちの電話 (1/25)
- (4) 相談員委員会: 毎月第 1 土曜日
・グループ連絡会: 奇数月第 1 土曜日 14 時～
各継続グループから交代でメンバーが参加
相談員の相互交流、情報・意見交換、組織運営に関する理解と提案など
・感謝のつどい: 2/2 (日) (30 年: 8 期生 3 名・20 年: 18 期生 3 名・10 年: 28 期生 5 名)
・リフレッシュ企画: 12/5 (木) 国土地理院 (15 名参加)
・年末年始の担当者への感謝のカード配布
- (5) サポート委員会: 毎月
・ほっとスタッフ (相談員 OB) 4 名と相談員のサポート・ケア
・7/28 (日) ミニわかし合いの会 (20 名参加)
・10/9 (月) わかし合いの会 (相談員のための相互サポー

ト: 14 名参加) 講師 永原伸彦氏

- (6) 調査研究委員会: 不定期
・統計資料を作成し、電話相談受信状況の把握と分析
・9/29 (日) セミナー「みなわ」「どうしてこの流れになったの?」講師 寺川亜弥子氏 (20 名参加)
- (7) 広報委員会: 毎月
機関紙年 2 回発行 (109 号 5 月・110 号 12 月)
・市町村、学校、病院に機関紙の配布
・県市町村の広報部門へイベント・養成講座生募集の記事掲載依頼
・ホームページの更改
- (8) 財務委員会: 随時
・財務 (予算・決算)
- (9) SNS 相談委員会: 隔月
- (10) IT プロジェクト (8/10)
- (11) 40 周年実行委員会
(4/21・5/12・5/26・6/23・6/30・7/28・8/18・10/6・10/27・11/17・12/22・1/13・1/18・2/15・2/23・3/13・3/23)

3. 特別事業

- (1) 厚生労働省補助事業
・毎月 10 日のフリーダイヤル自殺予防いのちの電話 (8:00～翌 8:00) 参加
・毎日フリーダイヤル (16:00～21:00) に参加
・公開講座
2024 年 11/4 (月)「自分を信じ、まわりに頼る～精神科医がすすめる“ほど良い”生き方」
香山リカ氏 (160 名参加)
・2024 年度厚生労働省補助事業 (孤独・孤立支援) プロジェクトに参加

4. その他

- (1) 相談員の募集 (40 期生)
- (2) 地区集会
土浦 (6/29)・県西 (6/30)・つくば (1/26)
- (3) 他機関への参加・協力
・「日本いのちの電話連盟」
①研修担当者研修会: 11/17
②定時社員総会: 6/15
③事務局長会議: 6/29・10/10
④ブロック会議 (12/3) WEB
⑤統計システム事業委員会: (5/28・7/23・8/26・10/17・12/18・3/4)
⑥連盟ハラスメント会議 (12/13)
⑦全国電話相談員オンライン交流会: 2/2・2/17
⑧いのちの電話プロジェクト (7/9・7/30・8/8・10/3・12/11・12/23・3/3)
⑨広報担当者会議 (7/22)
⑩自殺予防いのちの電話 FD 事業 (4/4・5/12)
⑪ FD トライアル (2024/9・2025/3/10～3/15)
⑫オンライン交流会 (2/14・2/25・3/8)
・つくば市ボランティア連絡協議会総会 (5/30)
・能登半島支援サブコーディネーター会議 (4/25・6/7・6/12・7/21)
・茨城県自殺対策連絡協議会 (12/16)
・筑協労働衛生委員会 (6/19・7/10・11/6)
・茨城被害者支援連絡協議会・キャンペーン (10/10・11/22)
・犯罪被害者キャンペーン (11/22)
・SNS 他センターへの講師派遣・視察受け入れ (5/12・5/26・7/5・9/29・3/30)
・常総市ゲートキーパー講習パネリストとして参加 (12/7)

Ⅲ 2024 年度 収支決算

2024 年度 法人資金収支計算書
(自) 令和 6 年 4 月 1 日 (至) 令和 7 年 3 月 31 日

法人名：社会福祉法人 茨城いのちの電話

(単位： 円)

勘 定 科 目		予算 (A)	決算 (B)	差異 (A-B)	
事業活動 による 収支	収入	相談事業収入	2,400,000	2,491,000	△ 91,000
		相談事業収入	500,000	404,000	96,000
		補助金事業収入（公費）	1,200,000	1,191,000	9,000
		茨城県		1,091,000	
		つくば市		100,000	
		補助金事業収入（一般）	700,000	896,000	△ 196,000
		茨城県共同募金会		470,000	
		茨城県社会福祉協議会「茨城県遊技業協同組合」配分金		200,000	
		茨城新聞文化福祉事業団		200,000	
		つくば市社会福祉協議会		16,000	
		いのちの電話連盟「朝日生命」譲金配分金		10,000	
		後援会収入	7,000,000	4,840,000	2,160,000
		経常経費寄附金収入	8,000,000	15,373,256	△ 7,373,256
		受取利息配当収入	1,000	9,614	△ 8,614
	その他の収入	99,000	0	99,000	
	事業活動収入計（1）	17,500,000	22,713,870	△ 5,213,870	
	支出	人件費支出	4,925,000	4,697,011	227,989
		事業費支出	5,670,000	5,603,740	66,260
		事務費支出	6,905,000	6,745,976	159,024
		事業活動支出計（2）	17,500,000	17,046,727	453,273
	事業活動資金収支差額（3）=（1）-（2）		0	5,667,143	△ 5,667,143
施設整備等 による 収支	収入	施設整備等収入計（4）	0	0	0
	支出	施設整備等支出計（5）	1,000,000	328,300	671,700
	施設整備等資金収支差額（6）=（4）-（5）		△ 1,000,000	△ 328,300	△ 671,700
その他の 活動による 収支	収入	その他の活動収入計（7）積立資産取崩	0	0	0
	支出	その他の活動支出計（8）積立資産支出	0	2,070,000	△ 2,070,000
	その他の活動資金収支差額（9）=（7）-（8）		0	△ 2,070,000	2,070,000
予備費支出（10）		0	0	0	0
当期資金収支差額合計（11）=（3）+（6）+（9）-（10）		△ 1,000,000	3,268,843	△ 4,268,843	
前期末支払資金残高（12）		0	13,198,848	△ 13,198,848	
当期末支払資金残高（11）+（12）		△ 1,000,000	16,467,691	△ 17,467,691	

法 人 貸 借 対 照 表
令和 7 年 3 月 31 日現在

法人名：社会福祉法人 茨城いのちの電話

(単位： 円)

資 産 の 部			
	当年度末	前年度末	増減
流動資産 (1)	17,619,291	14,608,482	3,010,809
固定資産 (2)=(3)+(4)	76,468,945	75,004,719	1,464,226
基本財産 (3)	58,500,000	58,500,000	0
その他の固定資産 (4)	17,968,945	16,504,719	1,464,226
器具及び備品	2,631,881	3,382,778	750,897
ソフトウェア	1,107,064	961,941	145,123
電話室研修室等整備積立資産	2,300,000	2,300,000	0
周年記念事業積立資産	3,000,000	930,000	2,070,000
財政調整積立資産	8,930,000	8,930,000	0
資産の部合計 (5)=(1)+(2)	94,088,236	89,613,201	4,475,035
負 債 の 部			
流動負債 (6)	1,151,600	1,409,634	△ 258,034
固定負債 (7)	0	0	0
負債の部合計 (8)=(6)+(7)	1,151,600	1,409,634	△ 258,034
純 資 産 の 部			
基本金 (9)	58,500,000	58,500,000	0
その他の積立金 (10)	14,230,000	12,160,000	2,070,000
電話研修積立金	2,300,000	2,300,000	0
周年記念積立金	3,000,000	930,000	2,070,000
財政調整積立金	8,930,000	8,930,000	0
次期繰越活動増減差額 (11)	20,206,636	17,543,567	2,663,069
(うち当期活動増減差額)	4,733,069	1,441,986	3,291,083
純資産の部合計 (12)	92,936,636	88,203,567	4,733,069
負債及び純資産の部合計 (13)	94,088,236	89,613,201	4,475,035

備考：(6) 未払い費用、預り金、(12)=(9)+(10)+(11)、(13)=(12)+(8)

様式例 (第 7 条関係)

監 査 報 告 書

令和 7 年 5 月 1 5 日

社会福祉法人 茨城いのちの電話
理事長 橋谷 浩史 殿

監 事 山口 敬規 殿
監 事 菊池 正典 殿

私たち監事は、令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日までの令和 6 年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容
各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告等(事業報告及びその附属明細書)について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類(計算書類及びその附属明細書)及び財産目録について検討いたしました。

2 監査意見
① 事業報告等の監査結果
一 事業報告等は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
② 計算関係書類及び財産目録の監査結果
計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

3 追加情報

2024 年度 事業計画・予算

事業計画

1. 相談事業

A. 電話相談

- (1) 電話相談の受付時間はつくば・水戸で協力して 24 時間受信を維持し、その充実につとめる。
- (2) 厚生労働省補助事業フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」を毎月 10 日及び「毎日 FD」(毎日 16 時～ 21 時) に受信する。
- (3) 茨城県自殺予防活動に協力する。

B. SNS 相談

- (1) SNS を活用した相談活動を継続して実施する。

2. 相談員の募集・養成及び研修

- (1) 電話相談員養成講座受講生を募集し、電話相談員の養成講座を実施する。
- (2) 電話相談員養成講座受講生募集のための説明会を開催する。
- (3) 継続研修としてグループ研修・全体研修を行い、研修・相互サポート・組織への理解を深める。
- (4) 3 年目・5 年目・希望 SV・アドバンス研修等を行う。
- (5) 研修スタッフの研修を継続的に行う。
- (6) 電話相談員の中から、SNS 相談担当者を募集し養成する。
- (7) SNS 相談研修を行い、ふり返りや相互サポートを行う。
- (8) 全国研修会・各種研修会などへの積極的な参加を図る。
- (9) オンラインでの研修も導入する。

3. 調査・研究活動

- (1) 統計資料を作成する。
- (2) 相談状況を把握・分析し相談活動に役立てる。
- (3) 調研セミナー“みなわ”(ケース勉強会など)を開催する。

- (4) 自己研鑽のための図書の充実を図る。

4. 広報活動

- (1) 機関紙(年 2 回)及び事業報告書を発行する。
- (2) マスコミや県市町村の広報部門へ情報を提供する。
- (3) ホームページや SNS で広報活動を行う。
- (4) 茨城いのちの電話・フリーダイヤル・相談員募集等のポスターやパンフレットを活用する。

5. 電話相談員の交流・親睦

- (1) グループ連絡会を定期的に開催する。
- (2) 内部連絡紙を定期的に発行する。
- (3) 地区集会・相談員のリフレッシュ企画を実施し、役員・相談員の交流を図る。
- (4) 相談員の相互サポートを充実させ、サポートシステムの活用を図る。

6. 財政基盤の確立

- (1) 財政の安定を図るために、卓話活動等で後援会員の拡大をはかり、広く寄附金を募る。
- (2) 催事及びバザーを開催する。
- (3) 手づくり会・常設バザー・アルミ缶回収・募金型自動販売機および募金箱の設置等自助努力を積極的に行う。
- (4) 助成金の獲得・拡充を図る。

7. その他

- (1) 開局 40 周年記念事業を実施する。
- (2) 自殺予防及び相談員確保のため、公開講座を行う。
- (3) 外部からの要請に応じ、傾聴ボランティア講座等へ講師を派遣する。
- (4) 事務室・研修室・電話室・休息室の改装を行う。

予算

2025 年度 法人予算書

法人名：社会福祉法人 茨城いのちの電話

(単位：円)

勘 定 科 目			当初予算 (A)	前年度予算 (B)	増減 (A-B)
事業活動 による 収支	収入	相談事業収入	2,000,000	2,400,000	△ 400,000
		相談事業収入	400,000	500,000	△ 100,000
		補助金事業収入 (公費)	900,000	1,200,000	△ 300,000
		補助金事業収入 (一般)	700,000	700,000	0
		後援会会費収入	7,000,000	7,000,000	0
		後援会寄附 (経常経費寄附金) 収入	8,000,000	8,000,000	0
		受取利息配当収入	1,000	1,000	0
		その他の収入	500,000	99,000	401,000
	事業活動収入計 (1)		17,501,000	17,500,000	1,000
	支出	人件費支出	4,925,000	4,925,000	0
		事業費支出	8,395,000	5,670,000	2,725,000
		事務費支出	6,681,000	6,905,000	△ 224,000
事業活動支出計 (2)		20,001,000	17,500,000	2,501,000	
事業活動資金収支差額 (3)=(1)-(2)		△ 2,500,000	0	△ 2,500,000	
施設整備等 による 収支	収入	施設整備等収入計 (4)	0	0	0
	支出	施設整備等支出計 (5)	1,000,000	1,000,000	0
	施設整備等資金収支差額 (6)=(4)-(5)		△ 1,000,000	△ 1,000,000	0
その他の 活動による 収支	収入	その他の活動収入計 (7) 積立資産取崩	3,500,000	0	3,500,000
	支出	その他の活動支出計 (8) 積立資産支出	0	0	0
	その他の活動資金収支差額 (9)=(7)-(8)		3,500,000	0	3,500,000
予備費支出 (10)			0	0	0
当期資金収支差額合計 (11)=(3) + (6) + (9)-(10)			0	△ 1,000,000	1,000,000

茨城いのちの電話役員

〈顧問〉

関 正 夫 (関彰商事(株))
浅 野 房 雄 (下妻小友幼稚園)

〈理事〉

幡 谷 浩 史 (茨城トヨタ自動車(株))
大 野 金 一 (弁護士)
中 込 四 郎 (筑波大学名誉教授)
潮 田 勝 利 (茨城県社会福祉協議会)
岡 本 俊 一 (関彰商事(株))
笹 原 信一朗 (筑波大学)
佐 藤 正 行 (茨城いのちの電話ボランティア)
杉 江 征 (筑波大学)
多 田 博 子 (茨城いのちの電話事務局長)
平 松 弘 基 (株カスミ)
宮 野 素美子 (茨城いのちの電話ボランティア)

〈監事〉

高 橋 恵 一 (ボランティア)
山 口 敬 規 (株茨城電通)

〈評議員〉

石 田 奈緒子 (株筑波学園ホテル)
岩 月 徹 (茨城いのちの電話ボランティア)
大 竹 伸 一 (株フジクリーン)
小 澤 勝 清 (茨城いのちの電話ボランティア)
小 原 昌 之 ((公財) 茨城カウンセリングセンター)
加 賀 信 広 (筑波大学)
川 上 俊 也 (茨城新聞社)
倉 林 清 (茨城いのちの電話ボランティア)
齋 藤 正 博 (茨城県福祉部)
杉 山 晃 (つくば市保健部)
須賀田 喜 孝 (ボランティア)
松 崎 一 葉 (筑波大学)
渡 辺 一 洋 (筑波銀行)